

☆☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆☆

東京 SJCD 第 1 回ステップアップミーティングのご案内

深緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る 2017 年 7 月 2 日(日)に開催いたします『東京 SJCD 第 1 回ステップアップミーティング』につきましてご連絡申し上げます。

今回のステップアップミーティングでは午前中、前回初開催し**大変好評をいただいた『Pre session』**(別紙の詳細案内参照)を**より内容を充実させ開催**いたします。午後の本会においては、今まで通り会員の先生方に多岐にわたる分野においてケースプレゼンテーションを中心とした発表をしていただきます。最後に上野博司先生より矯正治療による修復治療への影響について、先生の臨床例と共にご講演いただきます。

ステップアップミーティングを通じて皆様の日々の臨床のステップアップにつながれば幸いと存じます。

なお、今回も東京 SJCD 会員同士の親睦を深めるためにステップアップミーティング終了後、懇親会を開催します。

あわせて皆様お誘い合わせのうえご参加いただけますようお願いいたします。

日時	2017 年 7 月 2 日(日) 10:00~16:55 (Pre session 10:00~11:40 / 本会 13:00~16:55)
受付開始	Pre session 9:30~ / 本会 12:30~
懇親会	17:00~19:00
場所	お茶の水ソラシティ カンファレンスセンターRoomC(地図別紙参照)

【タイムテーブル】

開場・Pre session 受付開始 9:30
開会 10:00

10:00~11:40 Pre session

休憩 11:40~13:00
本会受付開始 12:30

13:00~13:05 会長挨拶

13:05~14:00 根間大地 先生 所属:さくら歯科クリニック

演題:「多数歯欠損に対し、可撤性義歯とインプラントを併用して機能回復を行った症例」

賛助企業ご挨拶、休憩 14:00~14:25

14:25~15:05 島松博 先生 所属:ワタナベ歯科医院

演題:「酸蝕症患者に対して咬合再構成を行なった一例」

15:05~15:45 河合竜志 先生 所属:けやき歯科クリニック

演題:「Microscopic Endodontic therapy における汚染物質の視認性を向上した症例」

休憩 15:45~16:00

16:00~16:55 上野博司 先生 所属:上野歯科

演題:「矯正一修復治療がもたらす臨床的価値について」

閉会 16:55

懇親会 17:00~19:00

- *東京 SJCD の会員は、入場の際QRコードが必要となりますので必ずご持参ください。
- *東京 SJCD の会員は無料で御参加頂けます。事前の予約等は必要ありませんので当日直接、会場へお越し下さい。
- *一般のビジターは Dr.3 万円・Dt.1 万 5 千円・Dh.9 千円となります。(予約不要)
- * 会員登録は入会された本人に限り有効です。例会・分科会等への代理参加は、同じ医院にお勤めでもお受け致しかねますのでご了承ください。
- ※講演中の撮影はご遠慮ください。

会場

お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター RoomC (<http://solacity.jp>)
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6
TEL 03-6206-4855

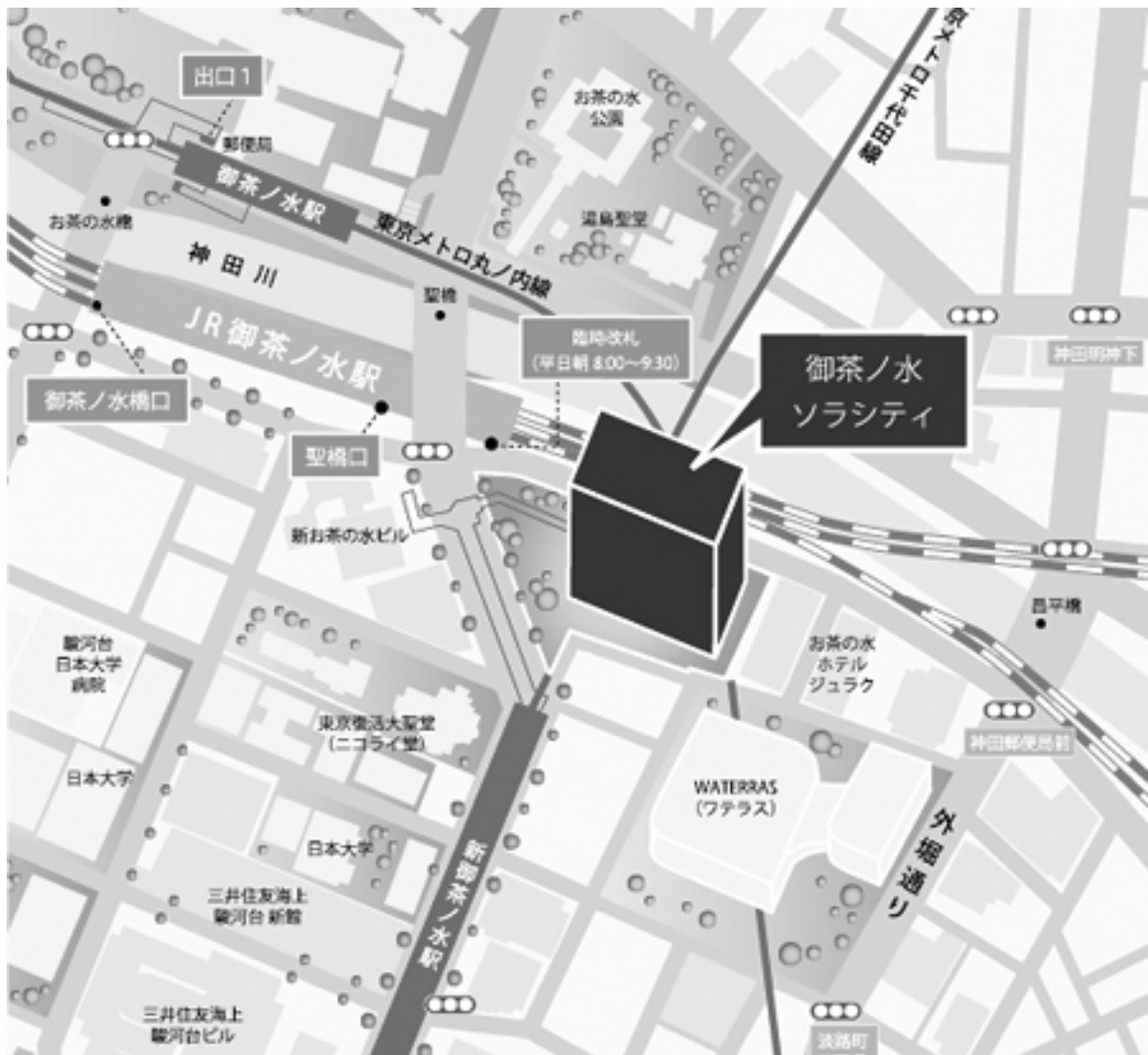
交通案内

JRをご利用の場合

- ・JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 聖橋口より、徒歩1分

地下鉄をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 B2出口1直結
- ・東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅 出口1より、徒歩4分
- ・都営地下鉄新宿線「小川町」駅 B3出口より、徒歩6分



さくら歯科クリニック 根間大地

演題 「多数歯欠損に対し、可撤性義歯とインプラントを併用して機能回復を行った症例」

略歴 2010年 日本大学歯学部 卒業
2010年 日本大学歯学部附属歯科病院 臨床研修医
2011年 寺西歯科医院 研修生
2011年 さくら歯科クリニック 勤務
2015年 岩本町デンタルクリニック 非常勤

抄録

本ケースでは多数歯欠損に対し、SJCD チャートに沿って診査診断を行い、抽出した問題点を解決出来る様再評価を繰り返しながら治療を進めて行きました。治療途中で当初の治療計画を変更しなければならない等のトラブルもありましたが最終的には可撤性義歯とインプラントを用いて機能回復を行い、良好な結果を得ましたので報告させていただきます。今後、高齢化や経済面等の諸事情から、インプラントによる固定性の補綴を選択できない場合が増えることが予想されます。可撤性義歯とインプラントを併用する治療は、双方の利点を生かすことで、患者術者双方の治療に対する負担を軽減できるため、多数歯欠損の重要なオプションになると思われます。そこで今回、症例を通じて可撤性義歯とインプラントの共存と有用性についても考えてみたいと思います。

ワタナベ歯科医院 島松博

演題 「酸蝕症患者に対して咬合再構成を行なった一例」

略歴 2014年 九州大学卒業
2014年 ワタナベ歯科医院就職
2015年 東京 SJCD レギュラーコース受講

抄録

日常臨床において酸蝕症患者は一度は目にしたことがあるかと思う。程度により知覚過敏処置やコンポジットレジン充填のような最小限の介入で済むこともあれば歯髄炎を引き起こし根管治療やフルマウスレストレーションが必要になることもある。本ケースにおいては酸蝕症のみならず咬合崩壊も起こしていた。basic data より診断用 wax up を作製し、治療計画を立案した。咬合再構成を行うにあたりラボワークと再評価の重要性を認識させられたプロセスを供覧させていただきたい。

けやき歯科クリニック 河合竜志

演題 「Microscopic Endodontic therapy における汚染物質の視認性を向上した症例」

略歴 1994年 日本大学松戸歯学部 卒業
1994年 日本大学松戸歯学部局部床義歯学講座 入局
1999年 日本大学大学院 修了
2003年 けやき歯科クリニック開設
2003年 レギュラーコース受講
2010年 マイクロデンティストリーベーシックコース受講
2013年 マイクロデンティストリーエンドコース受講
2015年 マイクロデンティストリーベニアコース受講

抄録

歯内療法における根管内の汚染物質除去は治療の成果を最も左右する処置である。近年、マイクロスコープの普及によりその視認性は向上し、治療成果も向上している。しかし、それでも根管口は狭く、根管内を観察できる方向や光の到達も制限されています。今回は透過光を応用した視認性を向上させる方法について発表します。

上野歯科 上野博司

演題 「矯正－修復治療がもたらす臨床的価値について」

経歴 1971年 東京都練馬区出身
1996年 日本歯科大学卒業
1999年 上野歯科 勤務
2006年 同院長

抄録

日常臨床で、治療ステップに矯正が加わると、修復治療をシンプルに行うことができ、より侵襲の少ない歯科治療が可能になると感じています。しかし、こういった治療を行う上では、様々な留意点が挙げられます。診断方法、臨床上必要な点、注意している点等をお伝えしたいと思います。

今回、矯正治療と修復治療がもたらす臨床的価値を皆様と再考してみたいと思う所存でございます。